(仮称) 奥州スマートインターチェンジ

計画概要

平成 25 年 2 月

岩 手 県岩手県奥州市

- 目 次 -

1	.高速目動車国道の路線名	1
	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	. 連結を必要とする理由	
	(1)基幹産業(農業)の振興	
	(2)救急医療の支援	
	(3)居住者の利便性向上	
	(4)製造業の支援	2
	(5)観光・イベント誘客	§
4	. 供用予定時期	§
5	. 連結のために必要な工事に要する費用の概算額	<u>S</u>
6	. 管理・運営形態	4
7	. 当該IC設置により期待される整備効果	5
8	. 位置図	12

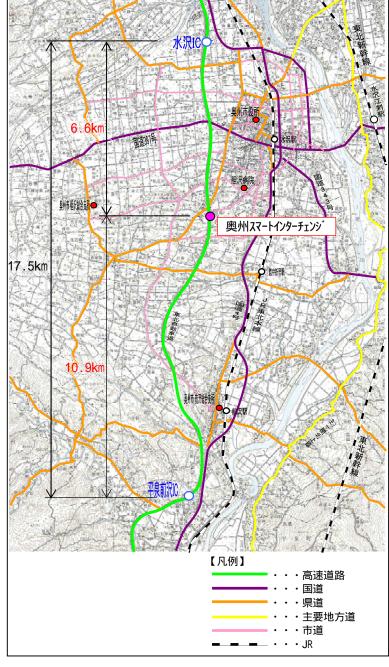
高速自動車国道の路線名 東北縦貫自動車道 弘前線

2. 連結位置及び予定施設

連結位置	上り線	岩手県奥州市胆沢区小山		
	下り線	岩手県奥州市胆沢区小山		
連結予定施設	上り線	市道 附野下笹森線		
	下り線	県道 衣川水沢線		

奥州スマートインターチェンジ位置図





3.連結を必要とする理由

奥州市は、岩手県内陸南部に位置し、北は北上市、西和賀町、金ヶ崎町、花巻市、南は一関市、平泉町、東は遠野市、住田町、西は秋田県に接しており、東北新幹線、東北自動車道及び国道4号が縦断するなど交通体系に恵まれた環境にある。しかし、本市に設置されている既存のインターチェンジ間の距離が17.5kmと離れている。

事業対象である奥州スマートインターチェンジは、東北自動車道の平泉前沢インターチェンジから10.9km、水沢インターチェンジから6.6kmの市中心部から近い位置に設置することにより、以下に示す整備効果が期待できるとともに、奥州市及び周辺地域の活性化に寄与するものと考えられる。

(1)基幹産業(農業)の振興

全国有数の農業県である岩手県の中で、奥州市は市町村別農業生産額がトップとなっているが、既存のインターチェンジは集出荷施設や産直施設から遠いことが課題となっている。スマートICを設置し、奥州市の基幹産業である農業の振興を図る。

(2)救急医療の支援

市内にある第二次救急医療機関である「県立胆沢病院」で対応できない重篤救急患者は、盛岡市の第三次救急医療機関である「岩手県高度救命救急センター(岩手医科大学附属病院)」に搬送されている。既存のインターチェンジは「県立胆沢病院」から離れており、今後高齢化の進むなか、救急搬送の重要度はさらに高まることから、スマートICを設置し、救急医療の支援を行う。

(3)居住者の利便性向上

スマートIC設置箇所は、市街地に近く人口が集中している地域となっている。 さらに、本市から近隣市町村(北上市・一関市・金ヶ崎町など)に自家用車で通 勤する労働者も多い。

近隣市町村への高速道路を利用した通勤、買い物や旅行、事業所の商品取引等の利便性の向上を図るため、スマートICの設置が必要である。

(4)製造業の支援

市内工業団地に立地する企業の原材料搬入や製品搬出は、高速道路を利用する輸送比率が高いことから、企業の生産性向上や今後の企業誘致する上でスマートICの設置が必要である。

(5)観光・イベント誘客

奥州市中心市街地、焼石岳、江刺蔵町等への交流人口の増加に向け、既存のインターチェンジとの間にある観光・イベント施設へのアクセス向上のためにスマートICを設置し、観光・イベントの誘客を図る。

4. 供用予定時期

供用予定時期:平成30年 3月

5. 連結のために必要な工事に要する費用の概算額

全体事業費:約 35億円

・日本高速道路保有・債務返済機構:約 19億円・東日本高速道路株式会社 :約 3億円・地元(岩手県・奥州市) :約 13億円

6.管理·運営形態

運用形態: 24時間

対象車種:ETC車載器を搭載した全車種

利用形態:一旦停止型、フルインター(上下線ともに出入り可)

表 東日本高速道路株式会社 料金車種区分

			法令による自動車の構造基準等						
車種区分	自動車の種別名称	車種番号	自動車の大きさ			最大	車両	乗車	排気量
			長さ	幅	高さ	積載量	総重量	定員	19F XVIII
	二輪自動車 (側車付含む)	-							125cc 超
軽自動車 (二輪自動車含む)	軽自動車	0*•3* 6*•8*							360cc 以下
	(三輪含む)	4***5**	3.4m 以下	1.48m 以下	2.0m 以下				660cc 以下
普通車	小型自動車 (三輪含む)	4***5** 6***7**	4.7m 以下	1.7m 以下	2.0m 以下				ガソリン車は 2000cc以下
	普通乗用自動車	3**							
	普通貨物自動車 (3車軸以下)	1**				か ^か 5t未満	8t未満		
中型車	マイクロバス	2**					8t未満	11~29人	
	普通貨物自動車 (トラクタ単体2車軸)	1**							
	普通貨物自動車 (3車軸以下)	1**				5t以上	t 8t以上		
	普通貨物自動車 (トラクタ単体で3車軸)	1**							
大型車	普通貨物自動車 (単体で4車軸で車両制限令限度以下)	1**	12m 以下	2.5m 以下	4.1m 以下		20~25t 以下		
	バス(中型)	2**	9m 未満				8t以上	29人 以下	
	バス(路線) (路線バス指定を受けている車)	2**					又(8t以上	[‡] 30人 以上	
	バス(大型) (路線バス以外で車長9m以上または 乗車定員30人以上)	2**	9m 以上				又 8t以上	^は 30人 以上	
特大車	普通貨物自動車 (単体で4車軸以上で車両制限令限度超)	1**	12m 以上	2.5m 以上	4.1m 以上		20~25t 以上		
	大型特殊自動車	9**							

[※]連結車両の料金車種区分は、けん引自動車の料金車種区分を基本に被けん引車の車軸数に応じて(1軸の場合は1つ上位、2軸の場合は2つ上位)上位の料金車種区分を適用。(例外:複数の車軸間の距離が1m未満の場合、料金車種区分の判別に1軸として扱います。また、大型車に区分される2軸のけん引自動車が1軸の被けん引自動車をけん引した場合の料金車種区分は大型車と扱います。)

7. 当該IC設置により期待される整備効果

農業関連効果

- ・ スマートICが設置されることにより、農畜産物の集出荷施設から関東圏までの出荷時間や、大型産直施設までのアクセス性向上により、物流効率化や利用者の利便性向上が図られる。
- ・ 将来的な農畜産業の安定化や担い手確保にもつながる。

農畜産物の出荷時間短縮!

農産物の集出荷施設から関東圏までの利便が向上



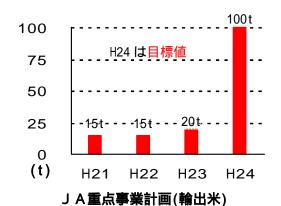
カントリーエレベーター



出荷式

利便の向上により、米の輸出も年々拡大

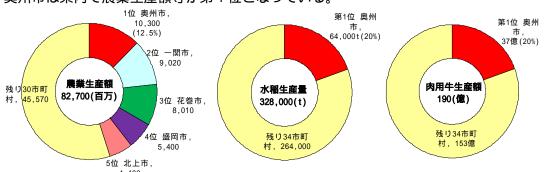
・奥州市出荷施設からトラック輸送により東京に出荷し、全国農業協同組合連合会がとりまとめて、シンガポールや香港等に輸出している。



全国肉用牛枝肉共励会から 5 度の名誉賞(日本一)を受賞



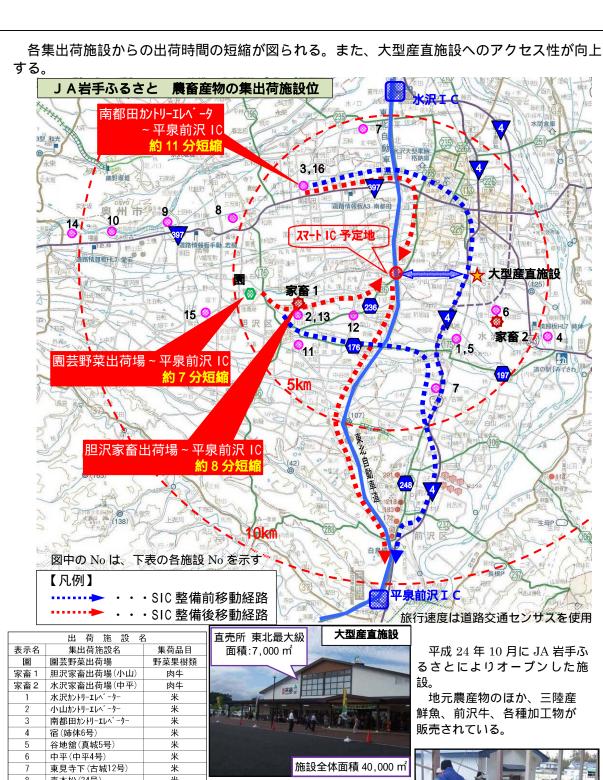
奥州市は県内で農業生産額等が第1位となっている。



グラフ1.県の農業生産額

グラフ2.県の水稲生産量

グラフ3.県の肉用牛生産額



	出荷施設名	2			
表示名	集出荷施設名	集荷品目			
蟗	園芸野菜出荷場	野菜果樹類			
家畜1	胆沢家畜出荷場(小山)	肉牛			
家畜2	水沢家畜出荷場(中平)	肉牛			
1	水沢カントリーエレベーター	米			
2	小山カントリーエレヘ゛ーター	米			
3	南都田カントリーエレベーター	米			
4	宿(姉体6号)	米			
5	谷地舘(真城5号)	米			
6	中平(中平4号)	米			
7	東見寺下(古城12号)	米			
8	壱本松(34号)	米			
9	明神下(35号)	米			
10	堰袋(37号)	米			
11	徳岡(31号)	米			
12	柴山(柴山32号)	米			
13	峠(峠28号)	米			
14	堰袋(36号)	米			
15	大谷地(大谷地30号)	米			
16	清水下(清水下33号)	米			
全	全 体 出 荷 量 23,709.4t				

全体出荷量と資材運搬等から換算 し、輸送台数は年間約17,300台とな っている。





野菜(ピーマン)集出荷の様子

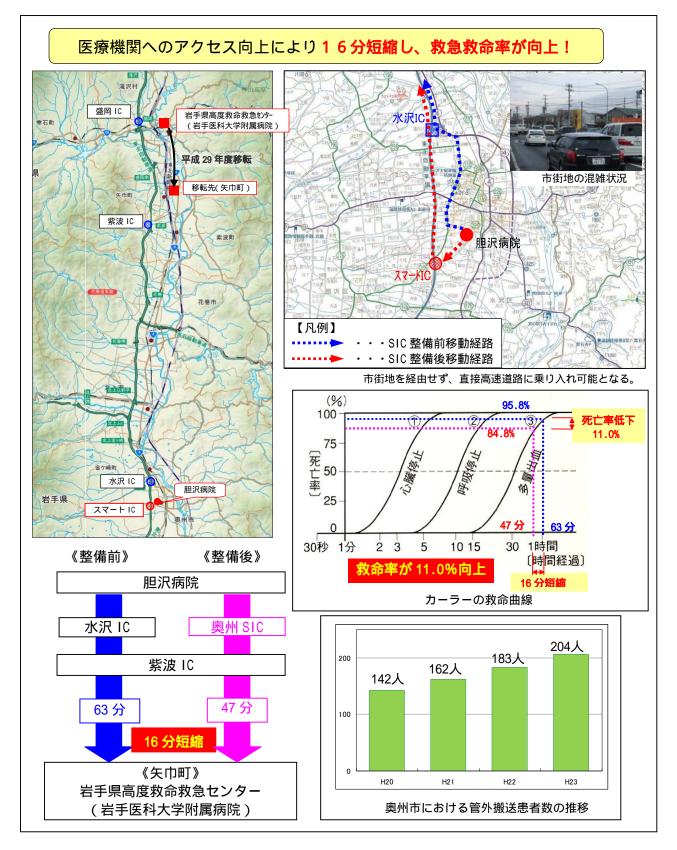


年始に行われる「肉牛初出荷」

関東方面へ出荷のため、牛 舎から肉牛が運び出される。

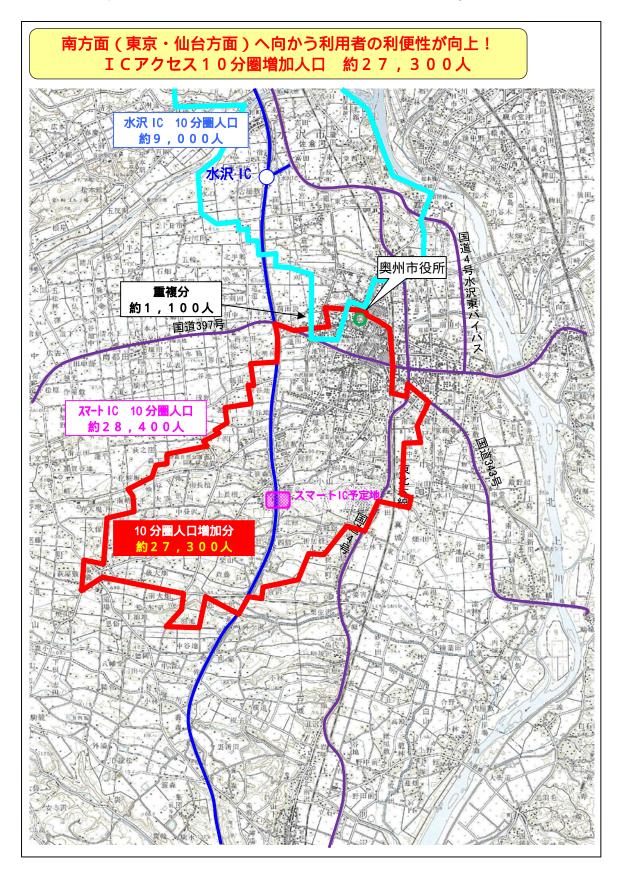
救急医療;救急救命率の向上

・ スマートICが設置されることにより、第二次救急医療機関の「県立胆沢病院」から第三次救急医療機関である「岩手県高度救命救急センター(岩手医科大学附属病院)」に重篤患者を搬送する時間が16分短縮(63分 47分)し、救命率の向上が期待される。



居住者の利便性向上

・ スマートICが設置されることにより、予定地周辺の住民の通勤、買い物 や旅行、事業所の商品取引等の利便性向上が期待される。



製造業への効果

スマートICが設置されることにより、周辺工業地までのアクセス性が向上し、周辺工業地からの高速道路アクセスが容易となり、企業の生産性が向上するとともに、新たな企業誘致も期待される。



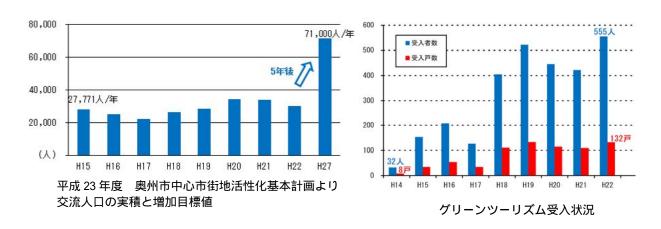
観光客の増加

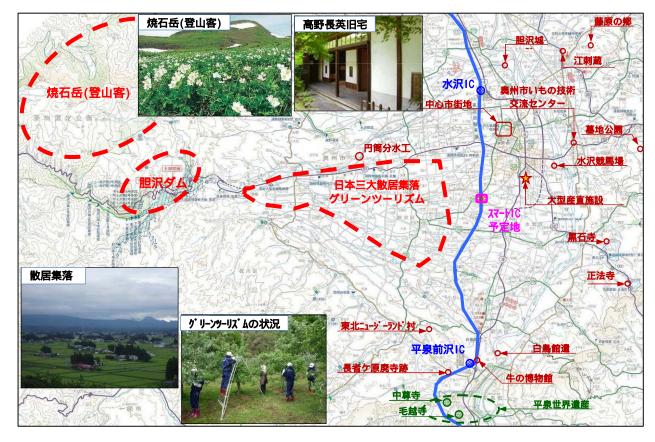
・ スマートICが設置されることにより、観光施設へのアクセス性が向上し、 来訪者の増加が見込まれる。

奥州市には多数の観光施設等があり、年間約3万人が訪れている。市の基本計画ではH27年度には約7万人の来訪者数とする計画である。

また、焼石登山の登山口である胆沢ダム周辺環境整備が H25 年度に完成予定であり、グリーンツーリズムへの誘客にも積極的に取り組んでいるところである。

スマートICの整備により、これら観光施設等へのアクセス性が向上し、 地域の活性化が期待される。





その他効果

ア)国際リニアコライダー(ILC)誘致

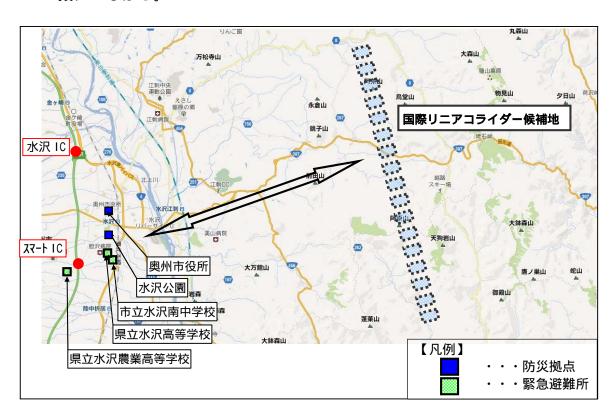
・ 直線 50km の地下トンネルを整備し、素粒子物理学分野の大規模研究施設 を建設する計画で、完成するとおよそ 3,000 人の研究者、ILC 関係職員の 常駐が想定されている。

H21 に、東北の 6 県・東北大学を含む 6 国立大学法人等により ILC の調査研究を目的とした組織を設立。H24 には誘致を進める組織に改組し、誘致推進に積極的に取り組んでいる。奥州市でも、H24 に官民による誘致促進組織を立ち上げ活動を展開している。

県の復興基本計画(H23.8.11)にもILCを核とした国際科学研究を位置づけている。

イ)防災拠点へのダイレクトアクセス

・ 震災発生時に防災拠点となった水沢公園や災害本部となる奥州市役所、緊急避難所等となる学校施設へのアクセスが容易になり、災害時の早急な支援につながる。



8.位置図

